

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年5月12日(2005.5.12)

【公表番号】特表2001-501938(P2001-501938A)

【公表日】平成13年2月13日(2001.2.13)

【出願番号】特願平10-517137

【国際特許分類第7版】

C 0 7 D 251/18

A 0 1 N 43/68

C 0 7 D 251/50

C 0 7 D 251/52

【F I】

C 0 7 D 251/18 D

A 0 1 N 43/68

C 0 7 D 251/50 B

C 0 7 D 251/52 D

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月28日(2004.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年9月28日

特許庁長官 小川 洋 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第517137号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 バイエル・アクチエンゲゼルシャフト

3. 代理人

〒107-0052

住所 東京都港区赤坂1丁目9番15号
日本自転車会館

氏名 (6078)弁理士 小田島 平 吉



電話 3585-2256

4. 補正命令の日付 なし

5. 補正の対象

特許請求の範囲

6. 補正の内容

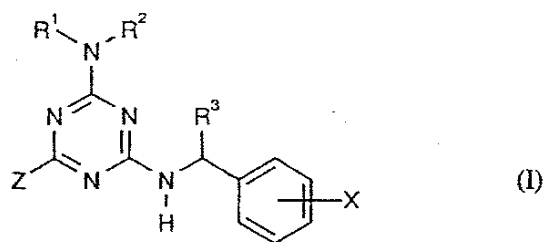
別紙に記載のとおり

万 式
審 査

別紙

請求の範囲

1. 一般式 (I)



[式中、 R^1 は、水素、又は場合によりヒドロキシル、シアノ、ハロゲンもしくは $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルコキシで置換されたアルキル（このアルキルは1個乃至6個の炭素原子を含む。）を表し、 R^2 は、水素を表し、ホルミルを表し、それぞれの場合に場合によりシアノ、ハロゲン又は $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルコキシで置換されたアルキル、アルキルカルボニル、アルコキシカルボニル又はアルキルスルホニル（これらは、それぞれの場合にアルキル基中に1個乃至6個の炭素原子を含む。）を表すか、又はそれぞれの場合に場合によりシアノ、ハロゲン、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルキル、ハロゲノ- $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルキル、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルコキシ、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルコキシもしくは $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルコキシ-カルボニルで置換されたフェニルカルボニル、ナフチルカルボニル、フェニルスルホニル又はナフチルスルホニルを表し、 R^3 は、場合によりシアノ、ハロゲン又は $\text{C}_1 \sim \text{C}_4$ -アルコキシで置換されたアルキル（このアルキルは1個乃至6個の炭素原子を含む。）を表すか、又は場合によりシアノ、ハロゲン又は C_1

～C₄－アルキルで置換されたシクロアルキル（このシクロアルキルは3個乃至6個の炭素原子を含む。）を表し、

Xは、下記の群：

ヒドロキシル、シアノ、ニトロ、ハロゲン、それぞれの場合に場合によりヒドロキシル、シアノ又はハロゲンで置換されたアルキルもしくはアルコキシ（このアルキルもしくはアルコキシは、それぞれの場合に1個乃至6個の炭素原子を含む。）、それぞれの場合に場合によりハロゲンで置換されたアルキルカルボニル、アルコキシカルボニル、アルキルチオ、アルキルスルフィニル又はアルキルスルホニル（これらは、それぞれの場合にアルキル基中に1個乃至6個の炭素原子を含む。）、それぞれの場合に場合によりヒドロキシル、シアノ、ニトロ、ハロゲン、C₁～C₄－アルキル、C₁～C₄－ハロゲノアルキル、C₁～C₄－アルコキシ又はC₁～C₄－ハロゲノアルコキシで置換されたフェニル又はフェノキシ

からの置換基を表し、並びに

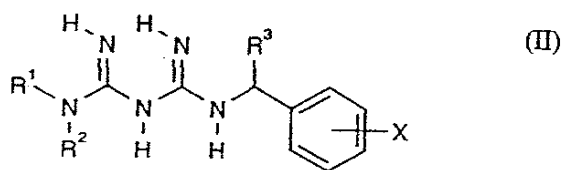
Zは、水素、ヒドロキシル、ハロゲンを表し、それぞれの場合に場合によりヒドロキシル、シアノ、ニトロ、ハロゲン、C₁～C₄－アルコキシ、C₁～C₄－アルキル－カルボニル、C₁～C₄－アルコキシ－カルボニル、C₁～C₄－アルキルチオ、C₁～C₄－アルキルスルフィニル又はC₁～C₄－アルキルスルホニルで置換されたアルキル、アルコキシ、アルキルカルボニル、アルコキシカルボニル、アルキルチオ、アルキルスルフィニル又はアルキルスルホニル（これらは、それぞれの場合にアルキル基中に1個

乃至6個の炭素原子を含む。)を表し、それぞれの場合に場合によりハロゲンで置換されたアルケニル又はアルキニル(このアルケニル又はアルキニルは、それぞれの場合に2個乃至6個の炭素原子を含む。)を表すか、又は場合によりシアノ、ハロゲン又は $C_1 \sim C_4$ アルキルで置換されたシクロアルキル(このシクロアルキルは3個乃至6個の炭素原子を含む。)を表すが、

但し、化合物2-アミノ-4-メトキシ-6-[1-(3-クロロフェニル)-エチルアミノ]-1,3,5-トリアジン、2-アミノ-4-メトキシ-6-[1-(3-メチルフェニル)-エチルアミノ]-1,3,5-トリアジン、2-アミノ-4-クロロ-6-[1-(3-トリフルオロメチルフェニル)-エチルアミノ]-1,3,5-トリアジン、2-アミノ-4-クロロ-6-[1-(3-ニトロフェニル)-エチルアミノ]-1,3,5-トリアジン、2-アミノ-4-クロロ-6-[1-(3-クロロフェニル)-エチルアミノ]-1,3,5-トリアジン及び2-アミノ-4-クロロ-6-[1-(3-メチルフェニル)-エチルアミノ]-1,3,5-トリアジンを除く。]

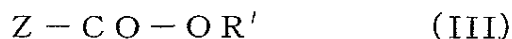
の置換2,4-ジアミノ-1,3,5-トリアジン類。

2. (a) 一般式 (II)



[式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 及びXは、それぞれ、請求に範囲1において定義したと同じである。]

の置換ビグアニド類及び／又は一般式 (II) の化合物の酸付加物を、適切であれば反応助剤の存在下で、また、適切であれば希釈剤の存在下で、一般式 (III)

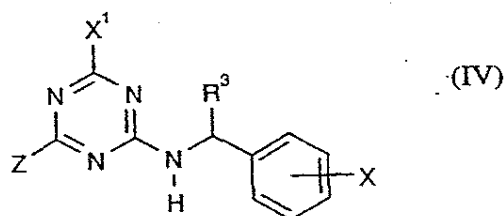


[式中、Zは請求の範囲1において定義したと同じであり、並びに

R' はアルキルを表す。]

のアルコキシカルボニル化合物と反応させるか、又は

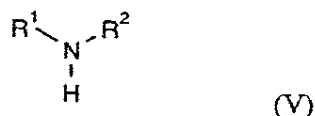
(b) 一般式 (IV)



[式中、 R^3 、X及びZのそれぞれは上で定義したと同じであり、並びに

X^1 はハロゲン又はアルコキシを表す。]

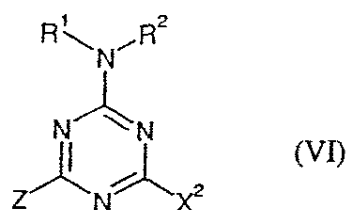
の置換アミノトリアジン類を、適切であれば反応助剤の存在下で、また、適切であれば希釈剤の存在下で、一般式 (V)



[式中、 R^1 及び R^2 のそれぞれは、上で定義したと同じである。]

の窒素化合物と反応させるか、又は

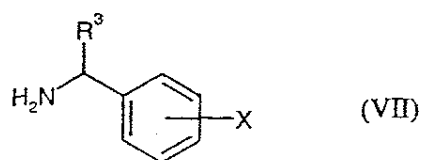
(c) 一般式 (VI)



[式中、 R^1 、 R^2 及びZは、それぞれ、上で定義したと同じであり、並びに

X^2 はハロゲン又はアルコキシを表す。]

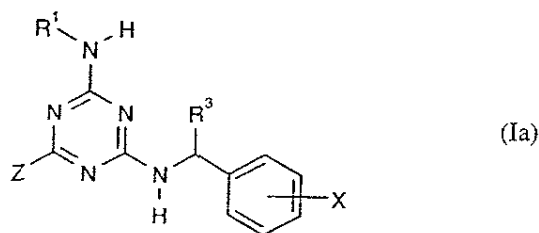
の置換アミノトリアジン類を、適切であれば反応助剤の存在下で、また、適切であれば希釈剤の存在下で、一般式 (VII)



[式中、 R^3 及びXのそれぞれは上で定義したと同じである。]

のアミノ化合物と反応させるか、又は

(d) 式 (I) の化合物 ($R^2 = H$ の場合の化合物を除く。) を製造するために、一般式 (Ia)



[式中、 R^1 、 R^3 、 X 及び Z のそれぞれは上で定義したと同じである。]

の2, 4-ジアミノ-1, 3, 5-トリアジン類を、適切であれば反応助剤の存在下で、また、適切であれば希釈剤の存在下で、一般式 (VII I)



[式中、 R^2 は、水素を除いて、上で定義したと同じであり、並びに

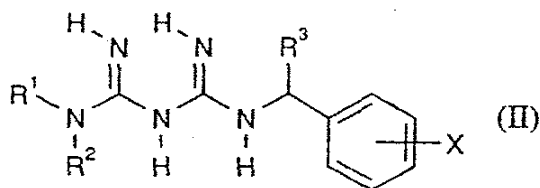
Y は、ハロゲン、アルコキシ、アルコキシスルホニルオキシ又はアシルオキシを表す。]

のアルキル化剤、アシル化剤又はスルホニル化剤と反応させ、そして、適切であれば、(a)、(b)、(c)又は(d)に記載された方法に従って得られる一般式 (I) の化合物に対して、置換基についての上記定義の範囲内での更なる変換を常例の方法で行うことを特徴とする、請求の範囲1に記載の式 (I) の新規な化合物の製造方法。

3. 請求の範囲1に記載の式 (I) の新規な化合物の少なくとも1種を含むことを特徴とする除草剤組成物。

4. 請求の範囲1に記載の一般式 (I) の新規な化合物を雑草又はそれらの生息場所に作用させることを特徴とする、雑草の防除方法。

5. 化合物1-[1-(4-トリフルオロメチルフェニル)-エチル]-ビグアニドを除く、一般式 (II)



[式中、 R^1 、 R^2 、 R^3 及びXは、それぞれ、請求の範囲1において定義したと同じである。]

の置換ビグアニド類、並びにそれらの酸付加物。